

◎今週の御言葉 「神の子イエス」(マタイの福音書17章24節～27節) 「彼らにつまずきを与えないために、湖に行って釣りをして、最初に釣れた魚を取りなさい。その口をあけるとスタテル一枚が見つかるから、それを取って、わたしとあなたとの分として納めなさい」(17:27)

仲森文穂

○イエス様が宮の納入金を納めるよう求められた話です。宮の納入金とは20歳以上の男子が年1回神殿に納める税金のことで、出エジプト30:12以下に「イスラエルに属する20歳以上の男子は、自分の命の代償金として、銀半シェケルを神殿に納めなければならない」ということが記されています。この銀半シェケルはギリシャ貨幣の2ドラクメに相当し、またローマ貨幣の4デナリオンに相当します。「あなたがたの先生は、宮の納入金を納めないのか」と礼を失する言葉を浴びせられたのですから、ここはペテロに「本来、うちの先生は神の子として税を受けとる側のお方だ。顔を洗って出直してこい」くらいの啖呵を切ってほしかった、と私は思います。というのは、16章でペテロはイエス様に向かって「あなたこそ生ける神の子です」という告白をしたばかりなのですから。

○イエス様は、彼らにつまずきを与えないために、「湖に行って釣りをして、最初に釣れた魚を取りなさい。その口をあけるとスタテル一枚が見つかるから、それを取って、わたしとあなたとの分として納めなさい」とペテロに言います。面白いことに、このお話には結末が書いてありません。でも私はそのとおりになったと確信しています。なぜなら、このガリラヤ湖には後に「ピーターフィッシュ」と名付けられる魚がいて、父親が口の中で稚魚を育て、成長すると子どもが帰ってこないよう口に小石を含むことがあるそうです。ですから、銀貨を口に含む魚がいても不思議ではないのです。

カファルナウムの小さなできごとの中に、神の子イエス様の片鱗が言い表されていることを信仰をもって受け止め、味わいたく思います。